

前号編集後記にお知らせしたように、本年度の世界農村社会学会議に金沢大学の二宮哲雄会員が日本代表として参加されることになりましたが、二宮会員より八月一日付で事務局あてにつきのようない連絡がありましたので、お知らせします。

〔前略〕 私、八月六日に東京を発ち、九日から一三日まで、ボーランドのトルニイという所で開催される第四回世界農村社会学会議に出席して参ります。トルニイのコペルニクス大学で開催されます。トルニイは、コペルニクスの生まれた土地だそうです。

会議では、アジア代表理事として、会の運営にあたりますが、その他一つのセミナーにおいて、リソース・パーソンとして司会者の一人を勤め、さらにペーパーを二つ出して発表を行なつて参ります。

今度の会議の課題は、

The Integrated Development Of Human And Natural Resources; The Contribution Of Rural Sociology. (人間と自然資源の統合化わた開発—農村社会の癡想—)

となりました。

内容的には、共通課題に直接取り組むかたわら Group A (Seminars 1~11) と、各個別テーマを通過して課題を解剖していくかたわら Group B (Seminars 12~21) とに大きく分けられていました。

私が司会者一人を勤めたのは、Group B の Seminar #19,

Environmental Development And The Quality Of Life. (環境開発と生活の質)

でした。

また、#18 で司会者をつとめたのは、Group A の Seminar #2, The Consequence Of Economic Growth For Human And Natural Resource Development. (人間と自然資源開発による社会構成の変遷)

#1' Group B Seminar #21,

The Rural Family Today. (今日の農村家族)

でした。

[註] され、私、会議終了後、いつの間に廻り、九月初旬に帰りました。

それで、秋の村研大会で、若し時間があるようでしたら、世界会

議の御報告を致したこと願ひてこまよ。.....

私は、活字として報告する点に関しては、私自身としては、『社会科学論譲』に発表したとおもいていますし、まだ、その義務もあると覚えております。ところで、それに加えて、私としては『村落社会研究』(年報)にも、角度を変えたり、しづつたりして、発表させていただきたくと願ひてこまよ。〔後略〕